

都市基盤情報整備及びGIS活用による業務の高度化・効率化と行財政改革（東京都杉並区）

取組概要

高精度3次元データによる基盤情報の整備とGIS(地理情報システム)を活用して、業務の高度化・効率化を実現。



人口564,489人 (H30.1.1現在)

担当 都市整備部土木計画課

取組の効果

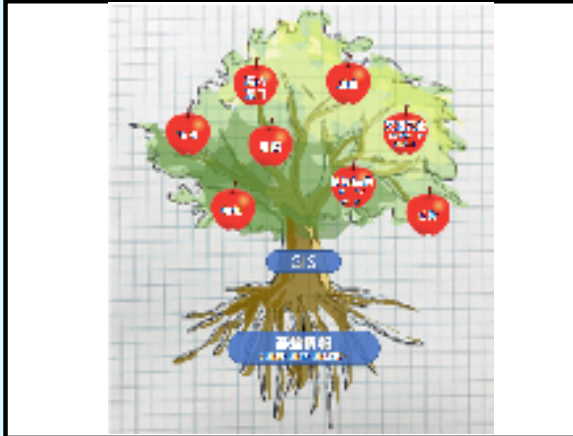
- ・オリジナル地図作成(地図情報レベル500地形図) …区費 0円
- ・全庁GISイニシャルコスト(補助金利用) …区費 約900万円
- ・専門部署から全庁へ、さらに区民へとGISの利用が拡大
- ・外部への提供情報量の増大(オープンデータ、ビッグデータ)
- ・様々な部署と連携することで新たな事業が創出

創意・工夫した点

- ・高精度3次元データから、区内全域の基盤情報を整備。地形図作成は区の費用負担ゼロ。
- ・都市インフラを扱う部署が確実に基盤情報を整備・更新していく。多くの職員が日常業務でストレス無くGISを使うことで全庁的に情報量が自然に増え、垣根を超えた情報の共有化が進み、区民への情報提供(オープンデータ)へと広がりました。

他団体へのアドバイス

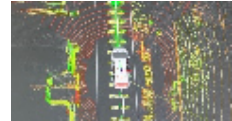
GISを使える職員を増やすためのいくつかの仕掛けが必要です。
今までの仕事の進め方を見直してもらい、GISを使うことで今までの仕事が効率化し、それによって得られた時間を別のことに有効利用できることを知ってもらうための取組みは現在も続いています。



基盤情報が各事業の成果を实らせる

土木・建築・都市計画
窓口の一元化(予定)

災害情報を自動で
オープンデータ化



基盤情報を
自動運転に活用

ビッグデータを活用した
安全対策

業務の高度化の一例